

これからの市立美術館について

平成 2 2 年 3 月
北九州市教育委員会

1 美術館のこれまでとこれから

北九州市立美術館は、昭和49年に開館し、平成21年に開館35周年を迎えました。

これまで、西日本出身作家を中心に、主として近現代の美術作品およそ7,000点を収集・保存し、これらを活用したコレクション展や多彩な企画展を開催して、多くの市民に優れた美術作品に触れる機会を提供してきました。

また、開館当初からの美術ボランティア制度や、小・中学校と連携した教育普及事業などにも力を入れてきました。

昭和62年には版画展示室や市民ギャラリーなどを備えたアネックス棟が完成し、さらに平成15年には、従来からの企画展に加え、漫画、デザイン、絵本など幅広いジャンルの展覧会の開催に対応するため、都心の“リバーウォーク北九州”に美術館分館を新設し、施設や機能の充実を図りました。

これらの活動によって、当美術館は、開館から平成20年度までの34年間で、本館・分館を合わせて入館者が900万人を超えるなど、北九州市及び広域都市圏の多くの市民に親しまれています。

一方、開館35周年を迎えた現在、文化に対する市民の価値観は多様化し、美術館に対する期待や要望などさまざまな変化に対応していくことが必要になると考えます。

2 美術館の基本理念

北九州市立美術館は、開館以来「地方美術館としてユニークな美術作品を収集する」、「市民生活に密着したリビング・ミュージアムを目指す」という基本方針（参考9P）に基づいて運営してきました。その基本的考え方は、現在でも変わらないものであり、今後も継承すべきものです。

しかしながら、開館35年を経て、現行の基本方針を市民によりわかりやすいものにするとともに、美術館の運営にあたっては、運営状況に関する評価、市民等への情報提供、学校との連携などが一層求められています。

これからの市立美術館は、地域文化を育みながら心豊かに暮らせるまちをめざす本市の文化発信拠点として、子どもから高齢者までの幅広い市民が集い、楽しむ場となることを目指します。また、市民の財産である貴重なコレクションを確実に将来の世代に伝えていくとともに、調査研究機能の充実、積極的な情報発信、市民参画の推進や学校教育との連携などを通じて、地域文化の振興に貢献していきます。

このような市民のための美術館を目指して、北九州市立美術館の基本理念及びその3つの柱を次のとおり掲げます。

《基本理念》

市民の生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域とともに成長していく美術館

《基本理念の柱》

(1) = 感じる、楽しむ =

市民がさまざまな時代の美術作品に気軽に触れて、多くのことを感じ、楽しみ学ぶことで、日常生活での潤いと心の豊かさを実感できる美術館

(2) = 交流する、育む =

市民が参画、交流する、人と文化を育む美術館

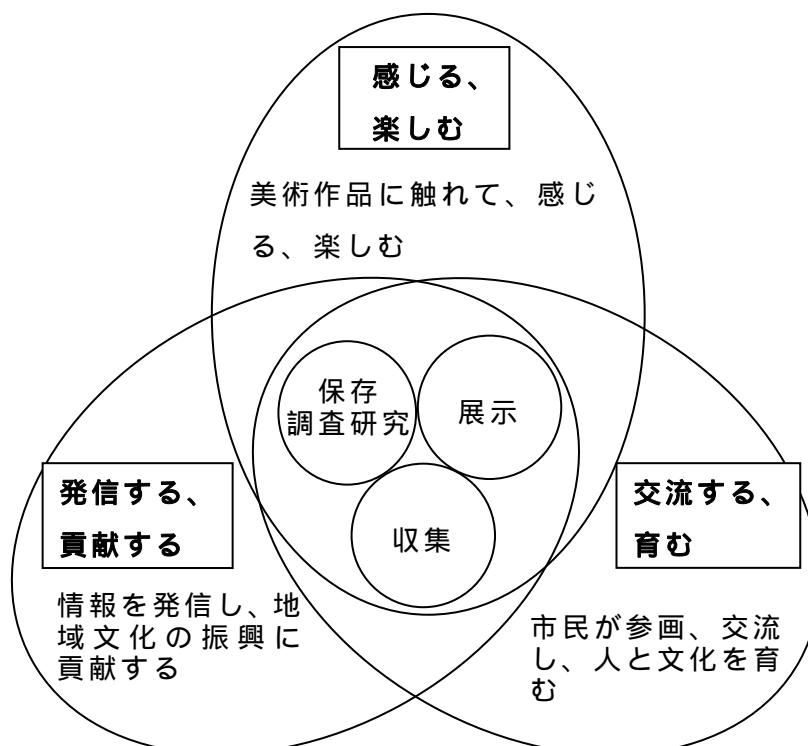
(3) = 発信する、貢献する =

美術作品の調査研究や、展覧会、ワークショップ等の美術館事業の成果を情報発信することにより、地域文化の振興に貢献する美術館

3 基本方針

美術作品の収集、保存、調査研究、展示は、すべての美術館活動の基本となるものです。そのため、今後も開館以来の収集方針に沿った運営を図り、そのうえで、新しい基本理念の3つの柱に対応する活動の方針を定めます。

【基本理念の柱・基本方針のイメージ図】



開館以来の世界的美術作品を含む収蔵品の蓄積を踏まえ、質の高い優れた美術作品の収集を心がけながら、地方美術館として特色あるコレクションの形成を目指します。

収集にあたっては時代背景、作家・作品の関係にも留意します。

- 西日本出身の作家の作品を中心とした日本の近現代美術
- 版画、素描
- 海外の近現代美術

地域とともに成長していく美術館を目指します。

感じる、楽しむ

- 市民が気軽に楽しめる美術作品や世界的な美術作品など、幅広い作品との出会いの場を提供します。
- 美術講座、講演会、ワークショップの実施及び鑑賞プログラムの提供などを通して、市民への教育普及活動の充実や学校教育との連携に努めます。
- 美術館と眺めのいい美術の森公園を一体的に楽しむことができ、子どもから高齢者までの幅広い市民が集い、楽しむ場となる美術の丘をつくります。

交流する、育む

- 市民参画型の美術館を目指し、美術ボランティアや美術ジュニアボランティアなどを育成・支援し、美術館活動を協働して運営していきます。
- 高校生や大学生などの若い世代を中心に、美術館運営に参画する機会を提供することで、美術への関心を高め、将来の地域文化を担う人材を育成します。
- 市内はもとより、国内外の美術館や美術関係者、地域の作家や学校関係者等と交流・連携し、広がりや深まりのある地域文化を創造します。

発信する、貢献する

- 収蔵作品に関する調査研究を行い、その成果を情報発信し、美術や学術の振興に貢献します。
- 各種の講座、講演会、ワークショップの記録や成果を、ホームページ等で情報発信し、市民の美術に関する興味・関心を高めます。
- 鑑賞教育について、見る人の発見を大切にし、見方や感じ方を広げる鑑賞方法についての調査研究を行い、それを基にした展示を工夫します。

4 具体的な取組み

(1) 『感じる、楽しむ』に対応する取組み

展覧会の充実

a 企画展の充実

- ・学芸員による美術史、作家・作品、収蔵作品の研究を踏まえた自主企画展、あるいは他館と連携した共同企画展の開催を推進します。
- ・市民の多様なニーズに対応するため、地元や国内外の近現代の絵画や彫刻、工芸、漫画、デザイン、絵本など、さまざまな分野の作品と出会える展覧会をバランスよく開催します。
- ・市民が親しみやすく気軽に楽しめる作品や世界的な作品、あるいは地域ゆかりの作品など、幅広い美術作品との出会いの場を提供する展覧会を開催します。

b コレクション展の充実

- ・特色あるコレクション（収蔵作品）を形成し、その研究を踏まえつつ、魅力ある展覧会を開催します。
- ・コレクション展は、さまざまなテーマ設定によるバラエティーに富んだ作品構成にします。

教育普及活動の充実

a 学校教育との連携強化

- ・市内の全小・中学生に配布し、現在年間5展の企画展が無料で観覧できる「たんけんパスポート」について、観覧できる展覧会のさらなる拡大を検討します。
- ・小・中学校と連携し、美術館を活用した美術鑑賞教室やワークショップ、美術鑑賞プログラムを充実・強化します。

b 生涯学習活動への支援

- ・就学前の子どもから高齢者までの各年代に応じた内容のワークショップ、美術講座や講演会などの教育プログラムを充実させます。
- ・収蔵作品や作家に関する研究内容を図録や冊子、解説カード等にまとめ、提供します。

環境の整備

美術館を中心とする丘陵に広がる「美術の森公園」について、子どもから高齢者までの幅広い市民が気軽に集い、楽しむ美術の丘となるよう、眺望の確保、散策路やくつろげる空間の整備などの環境改善を検討していきます。また、関係部局等との様々な文化振興施策やイベント等との連携を図り、賑わいの創出に努めます。

さらに、来館者の利便性を高めるため、本館への交通アクセスや道路案内などの改善や、海外からの観覧者に対応するため館内案内等の英語その他の主要外国語での併記を検討します。

また、来館者がゆったりと観賞し、美術館の非日常的空間を楽しめるよう、椅子の増設や既存のパブリックスペースのレイアウト改善などを図るとともに、乳幼児を連れた方や障害のある方などが来館しやすい環境づくりに取り組みます。

(2) 『交流する、育む』に対応する取組み

ボランティア等の養成・連携

a 美術ボランティアの養成・支援

- ・開館以来、美術館は来館者への作品解説、資料整理などを行う美術ボランティア、美術ジュニアボランティアの活動に支えられています。今後も美術ボランティア等の養成に努め、ボランティア活動への参加による市民の自己実現を支援し、市民参画による美術館運営を進めます。

b 美術館運営サポーター（仮称）の新設

- ・美術館の運営を支援する美術館運営サポーター（仮称）の新設について検討します。特に、市内の高校・大学等と連携し、生徒・学生がサポーター会員として、例えばコレクション展での作品選定や展示企画などの美術館活動に関わる方策を検討するとともに、博物館実習生を積極的に受け入れるなどにより、美術館への関心を高めます。

市民ギャラリーの充実

- ・地域の作家による作品発表の場として活用されている市民ギャラリーについて、一層の利用促進を図ります。
- ・市民ギャラリーで行われる展覧会のスケジュールや展示内容を積極的に広報し、多くの市民が地域の作家にふれる機会を提供します。
- ・美術館内の案内表示を改善し、市民ギャラリーへの動線をわかりやすくします。

「美術館友の会」の充実

- ・美術館の活動を支援している「美術館友の会」と連携して、美術館の魅力を幅広くPRします。
- ・友の会会員の普及拡大を目指し、近隣自治体の美術館等の友の会と連携して、入場料の相互優遇などを検討します。

市内の文化施設等との連携

- ・北九州市内の博物館や芸術劇場などの文化施設、さらには、商業施設などと連携した展覧会やワークショップなどを開催します。

他館や学校教育との連携

- ・美術史、作家・作品、収蔵作品等の知識や技術的な知見などに関して、他美術館学芸員と当館学芸員との情報交換やフリーディスカッションの場を設けるなど、他館と連携した調査研究を推進します。
- ・小・中学校の美術鑑賞教室などの機会を通じて、学芸員が学校教員に対して鑑賞プログラムの作成などを支援したり、共同して教材開発を行ったり、あるいは教員がコレクション展示企画に参画するなど、学校教育と連携した美術館運営を推進します。

(3) 『発信する、貢献する』に対応する取組み

調査研究の充実・発信

次のような美術作品の調査研究や各種の美術館事業の成果に関する情報を発信することで、北九州市の教育や文化振興に貢献していきます。

- ・コレクション展や収蔵作品を活用した自主企画展を通じた収蔵作品の調査研究
- ・美術史や近現代作家に関する調査研究や、展覧会、ワークショップなどの美術館事業
- ・学校との連携による学習プログラムや子ども向けワークショップなどの教育普及活動

広報・PR活動

a 広報活動の充実

- ・これまでの企画展に加え、コレクション展についても、新聞等多様な広報媒体の活用やホームページの充実を図ります。また、子ども向けのわかりやすい情報提供にも取り組みます。

b デジタルミュージアムの構築

- ・当館収蔵作品をデータベース化し、収蔵作品の管理、展覧会の企画立案、調査研究で活用するとともに、市民がいつでもホームページで作品を閲覧できるよう、デジタルミュージアムを構築します。

c モバイルメディアの活用

- ・携帯電話等によるインターネット利用に対し、美術館情報を携帯電話などのモバイル環境で閲覧可能にするシステムを構築します。

d 国際化への対応

- ・海外からの来館者にわかりやすく情報提供したり、調査研究の成果を世界に発信したりできるよう、インターネットの英語版、中国語版、韓国語版ホームページの作成を検討します。

e 建築展示コーナー（小展示室）の活用

- ・当館を設計した磯崎新氏の建築を紹介するコーナーとして、美術館の模型や建築資料などを展示します。
- ・展覧会等の美術館事業のPRや、学芸部門の研究発表など、情報を発信するコーナー等として活用します。

情報発信の推進

市民に開かれ、親しまれる美術館を目指し、美術館に関する多様な情報を新聞、テレビ、ラジオ、情報誌などを活用して積極的に発信し、美術館及び北九州市のイメージアップに貢献します。

鑑賞教育の視点に立った展示の工夫

a 能動的な鑑賞をうながす展示の工夫

- ・コレクション展において、見る人の発見を大切にし、見方や感じ方を広げるなど、能動的な鑑賞ができるよう工夫した作品選定や展示を行います。

b 学校や地域の教育機関と連携した展示の工夫

- ・学校や地域の教育機関と連携した展覧会や、図画工作・美術の授業と連携したコレクション展を企画するなど、学校の鑑賞教育に役立つよう展示内容を工夫します。

（４）全体の基盤整備に係る取組み

美術館施設・設備の整備

a 収蔵庫の整備

- ・既存の収蔵庫の保管棚の増設及び老朽化した空調設備の改修を行います。
- ・収蔵作品のより良い保存環境の確保や将来の収蔵作品の増加に対応するため、新たな収蔵庫の増設等を検討します。

b 作品一時保管室の確保

- ・多くの企画展に対応するため、審査室としても利用できる作品一時保管室を確保します。

美術館の事業目標設定及び評価

- ・5ヵ年単位で事業の目標を設定し、年次計画に基づき評価・検証します。
- ・美術館による自己評価を行うとともに、北九州市立美術館協議会による外部評価を行い、効果的に事業を推進するとともに、サービスの向上を図ります。

美術館協議会

a 委員構成の見直し

- ・美術館の企画・運営に高度な知識や経験を持った専門家、学識経験者を加えます。

b 協議会の活用促進

- ・美術館協議会に対して、美術館としての自己評価の結果を報告し、美術館協議会による外部評価の実施や改善、是正などの意見を求めます。

美術館の組織体制等

新たな取組みを押し進めていくため、その中心的役割を担う学芸員の増員も含めて、組織体制や運営体制の整備に取り組みます。

施設・設備の大規模改修

築後35年を経過し老朽化が著しい本館の施設・設備について、大規模改修の検討を行います。

北九州市立美術館の基本方針（現行）

地方美術館としてユニークな美術作品を収集する。

- 西日本出身作家の作品を中心に、近現代美術に関する統一的コレクションを目指す。
- 版画、素描の収集に力を入れる。
- 洋の東西を問わず、世界的名品の収集に努める。

市民生活に密着したリビング・ミュージアムを目指す。

- 高見丘陵全体を美術の森公園として、市民の憩いの場とする。
- 市民に親しまれる企画展の開催とともに、世界のトップレベルにある美術品の展示に努める。
- 美術講座やワークショップなど、市民に対する普及活動を進める。
- 美術館と市民をむすぶ、美術ボランティアの育成に努める。
- 館所蔵作品の常設展示を行う。